



骨を惜しまず、骨のある人に

新たな年を迎えました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましても、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、本校の教育活動に対しまして、多くのご支援を賜り誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、国文学者の中西進先生によると人間の体、特に顔には植物と同じ名前がついているそうです。植物は、芽が出て葉が出て、花が咲き、実がなります。それは、ちょうど人間の「目、歯、鼻、耳」にあたります。そして、顔ではありませんが、すぐれた根のことを「秀根(ほね)」と言うのだそうです。つまり、植物のすぐれた根である「ほね」は、人間の骨に通じると言えます。実際、人間の体には206個の骨があり、その骨は体を支え、脳や心臓などの内臓を守り、血液をつくっています。ですから、人間にとって「骨」はなくてはならないものなのです。

その「骨」。数多くの慣用句がありますが、苦勞することや精を出すことを「骨を折る」と言い、物事を進めることは大変である、困難を伴うということの意味しています。反対に怠けることを「骨を惜しむ」などと言います。その他にも「強く心に感じることを「骨にしみる」、物事を中心となったり、支えたりする意味で「骨組み」という言葉が使われることもあります。

一方で、様々な困難に耐えて、粘り強く取り組む人のことを「骨のある人」と言います。「骨のある人」は、自分のた

めだけではなく、人のために苦勞や努力ができる人でもあります。

子どもたちは、新しい年の始まりにあたって、夢を描き、目標を立てていることと思います。何事もスタートは大変で、何倍もの労力(エネルギー)が必要ですが、ぜひ、夢や目標に向かって「骨を惜しむ」ことなく努力を続けると共に、一人一人が持っている自分の力を周りの人のために生かすことができる「骨のある人」を目指してほしいと思います。

この3学期は、それぞれの学年の学習や運動など、身につけるべきものを全て自分のものにして次の学年に備えるまとめの大切な学期です。今まで学んだことを生かしながら学年最後のまとめと、新しい学年への準備ができることを期待しています。同時にこの3学期。高浜小学校は、子どもたちががんばり続けるための支援を全力で行っていきます。そして、一人一人の学習の取り組みや生活を振り返り、努力してきたことをしっかりと評価し、改善や工夫が必要なことについて確認し、子どもたちの成長へとつなげていきたいと考えています。今学期も保護者の皆様、地域の皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



3学期 始業式

新「UNIKARA」販売開始

硬貨を入れ、ガチャガチャと取っ手を回すとカプセルが飛び出す。いわゆる「ガチャガチャ」と呼ばれるカプセル玩具の販売機。最近では、専門店も登場し、昨年度の市場規模は過去最高の約450億円（日本玩具協会）に達し、20年ほど前に比べ7割も増えました。少子化やコロナ禍の逆風の中で、大人をはじめとするマニアの需要を取り込み、ご当地商品や精巧な商品が次々と生まれています。

その「ガチャガチャ」。5・6年生を中心とする「コドモノ明日研究所」で開発した新商品「UNIKARA」を昨年末より「UMIKARA」で販売しています。今年度は、昨年度の販売状況を課題としてとらえ、その改善に向けて探究学習を続けてきました。その結果、3つの商品を新たに開発すると共に、購入する際、「ワクワク感」や「ドキドキ感」を持ってもらうためのプレミアム商品も導入しました。

「ガチャガチャ」という言葉は、親の資力で将来が決まると嘆く「親ガチャ」や若者の運命が政治で決まるという「国ガチャ」など、否定的な文脈でばかり語られることが多くなってきましたが、本来は、「何が出てくるのかな」とワクワクさせるもののはずです。高浜小学校の子どもたちが知恵を絞り、地域のみなさんとの協働で創り出した夢の「カプセル」。今年も地域を盛り上げるための商品となることを願っています。



続けるための「コツ」をつかもう

夢や目標を達成するために、3年間はゲームをしない、テレビを見ないと誓った人がいた。ところが、あくる日には、もうゲームを始めている。

「もう、おしまいなの？」

「いや、3年を6年に延ばして、夜だけはゲームをすることにした。」

「だったら、いっそ12年にして、昼もゲームをしたら…」



古い小話から転じた話です。年の初め、子どもたちは、今年の目標や誓いを立てて、「がんばろう」という気持ちになっていることと思います。しかし、なかなか続かず、いわゆる「三日坊主」で終わることも少なからずあるのではないのでしょうか。そこには理由があって、まずは、続けるための「コツ」をつかむことが大切だとあるビジネス書には書かれていました。やみくもに頑張るのではなく、目的や目標、手段をはっきりとさせることが肝心なのです。例えば、漢字名人（漢字検定合格など）になるために【目的】、漢字テストで高得点を取りたい【目標】、だから、毎日ノート1ページずつ練習を続ける【手段】といった具合です。もちろん、その続けている努力を周りの人たちが認め、褒めるということも必要です。新年の誓いを大切に、兎年にふさわしく、子どもたちが大きく飛躍する1年になることを期待しています。